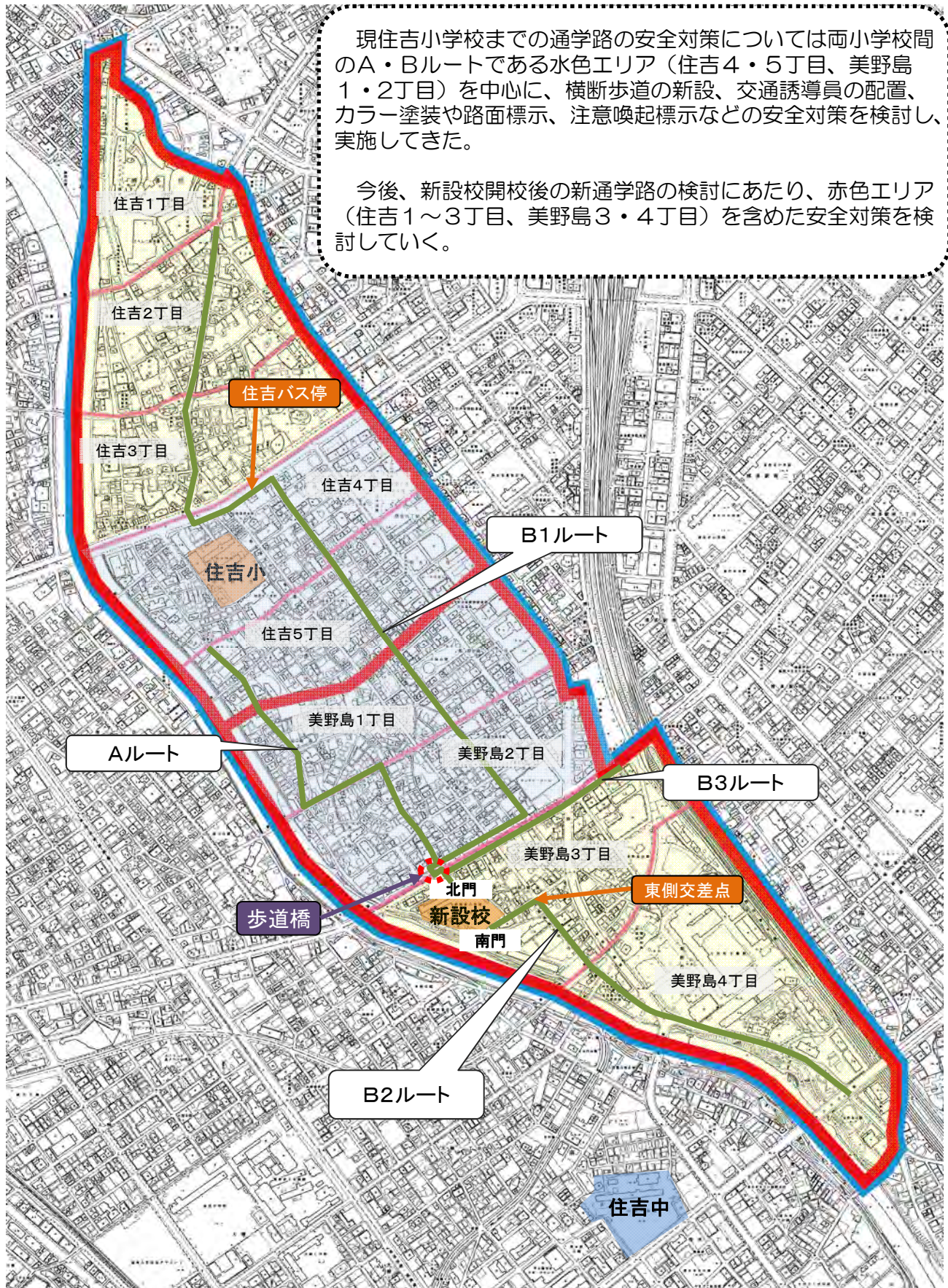


## 新設校開校後の通学路について



## 新通学路の考え方

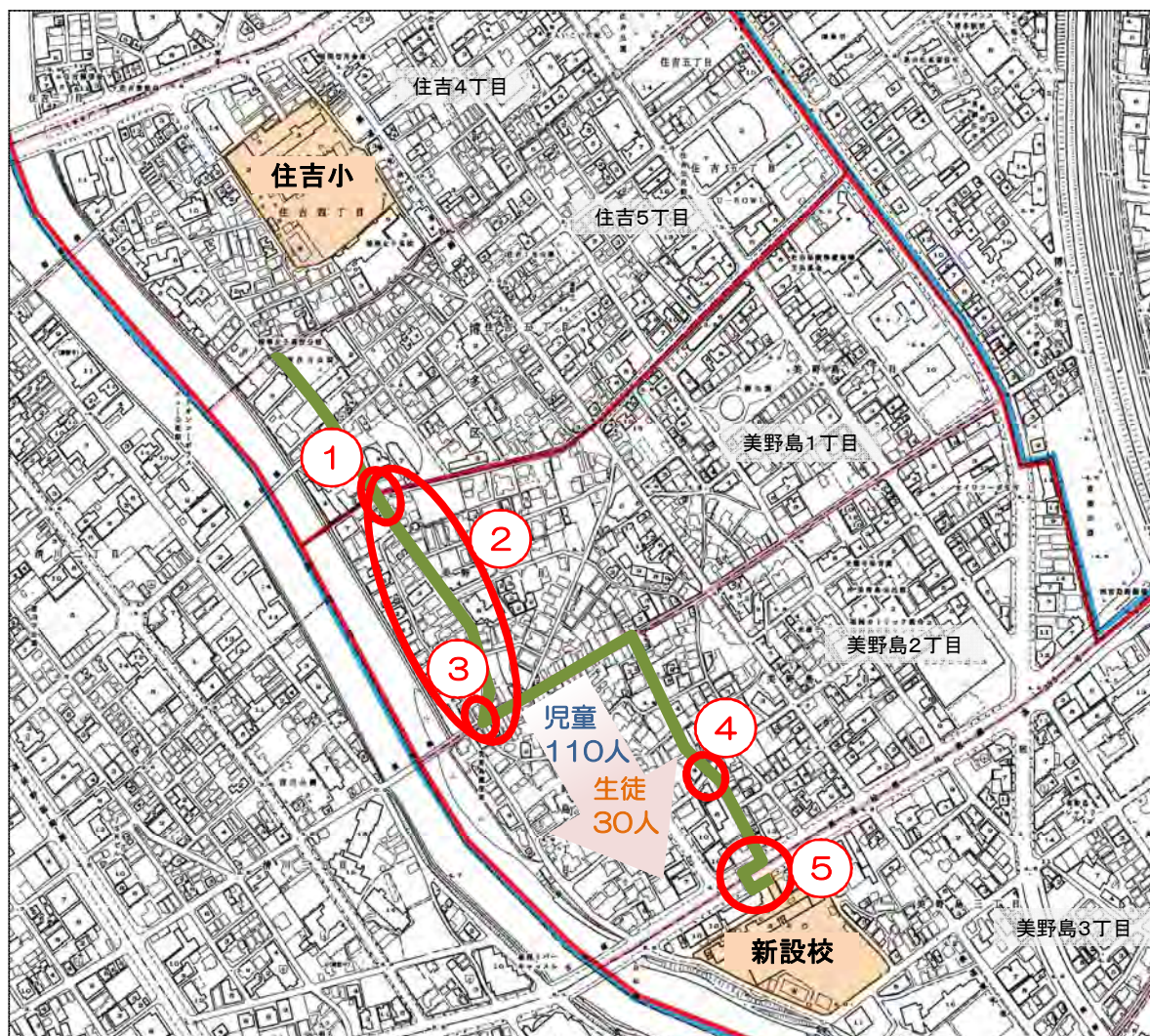
ルート	概要	説明	児童・生徒数
A	現在のAルートを引き続き使用するルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>百年橋通りの横断は歩道橋を使用し、北門へ進入。</li> </ul>	児童：約110人 生徒：約30人
B1	住吉通り以北の通学路と現Bルートをつなぐルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉通り以北の通学路は歩道整備された「住吉宮前通り」を指定し、西側の歩道を通行することとする。</li> <li>住吉通りは「住吉小学校前」交差点を横断し、南側歩道を通行して、「住吉バス停」先の交差点から現Bルートへつなぐ。</li> <li>百年橋通りは北側歩道を通行し、横断は歩道橋を使用して北門へ進入。</li> </ul>	児童：約150人 生徒：約60人
B2	美野島3・4丁目からのルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設校東側交差点までは現行の通学路を使用。同交差点から左折し南門へ進入。</li> </ul>	児童：約290人 生徒：約130人
B3	美野島3丁目東部エリアからのルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>百年橋通りは南側歩道を通行し北門へ進入。</li> </ul>	児童：約30人 生徒：約10人

中学校の通学路については、小学校と同一の通学路を使用することとする。

## 通学路の安全対策【Aルート】

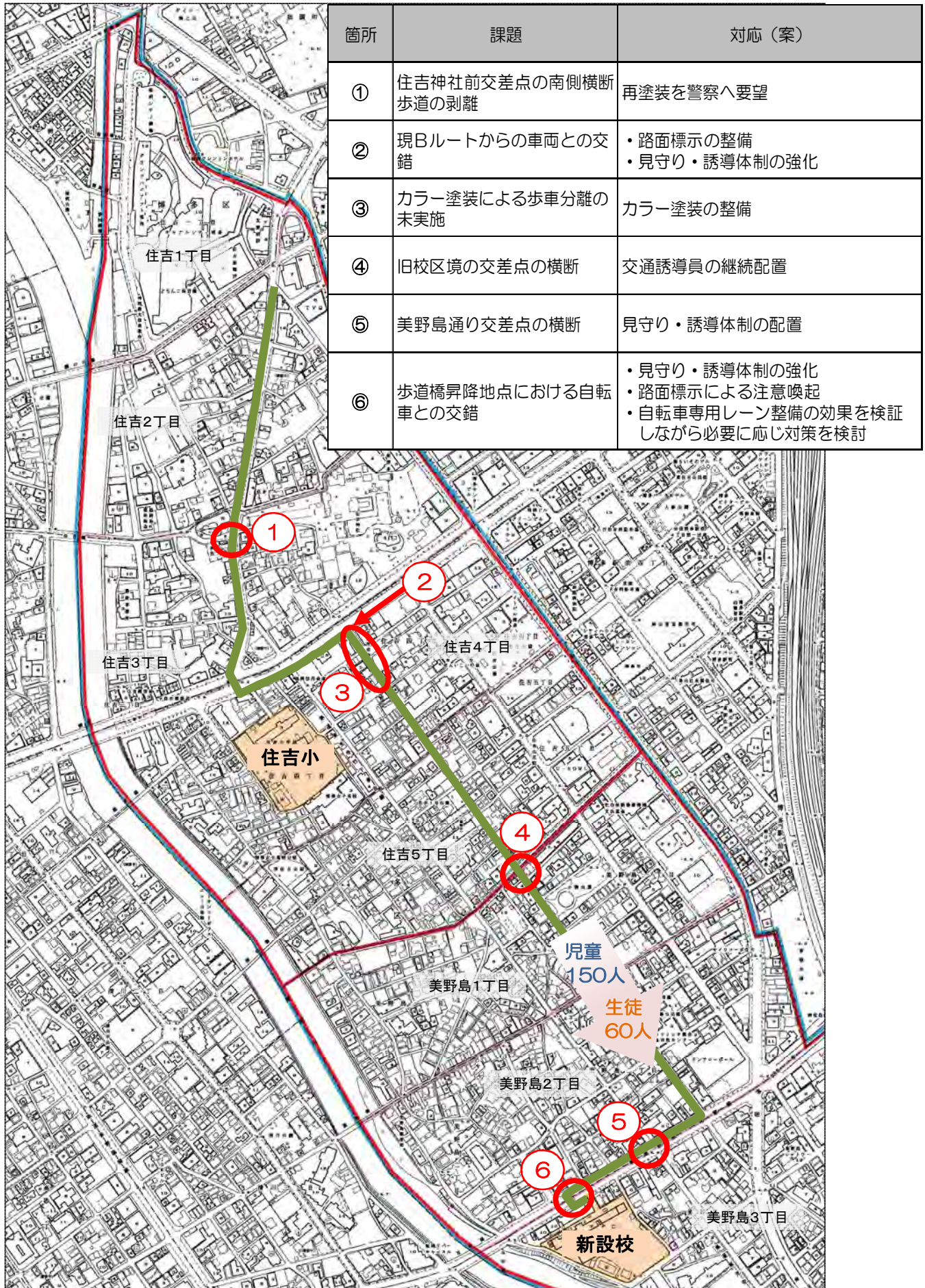
既存の通学路であり、一定の安全対策を実施しているが、対策が必要な箇所について警察要望を行うなどの対応を行っている。また、歩道橋を使用する児童が増加するため、昇降地点における安全対策を講じる必要がある。

箇所	課題	対応（案）
①	停止線の剥離	再塗装を警察へ要望
②	カラー塗装による歩車分離	塗装実施について警察へ再協議
③	停止線の剥離	再塗装を警察へ要望
④	横断歩道の剥離	再塗装を警察へ要望
⑤	歩道橋昇降地点における自転車との交錯	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り・誘導體制の強化</li> <li>路面標示による注意喚起</li> <li>自転車専用レーン整備の効果を検証しながら必要に応じ対策を検討</li> </ul>



## 通学路の安全対策【Bルート】

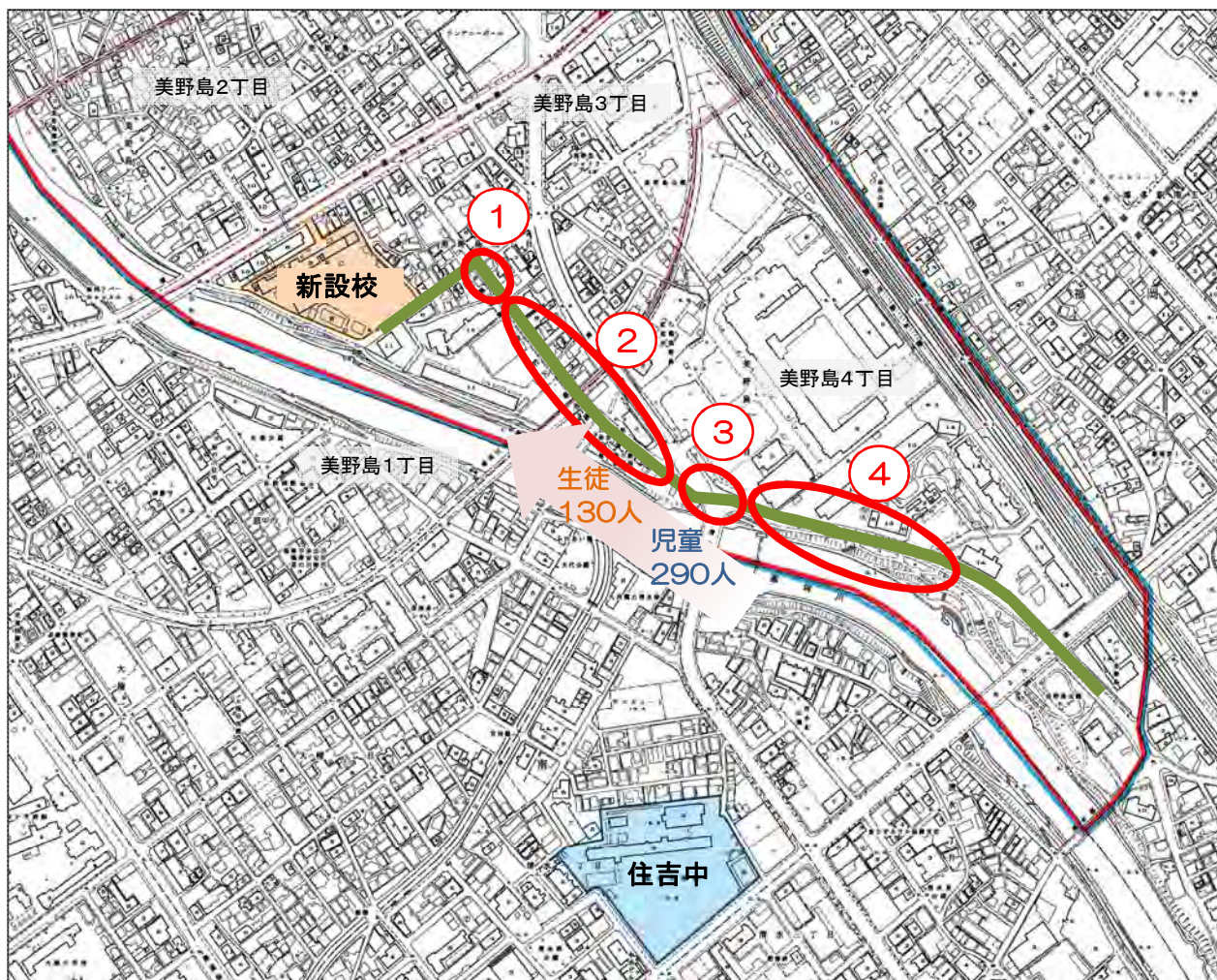
Bルートの現通学路部分について、一定の安全対策を実施しているが、新たに通学路として指定する部分の安全対策を講じる必要がある。



## 通学路の安全対策【B2ルート】

既存の通学路であり、使用する児童数も多いため課題について抽出し、今後新通学路の検討にあわせてさらなる安全対策を検討していく。

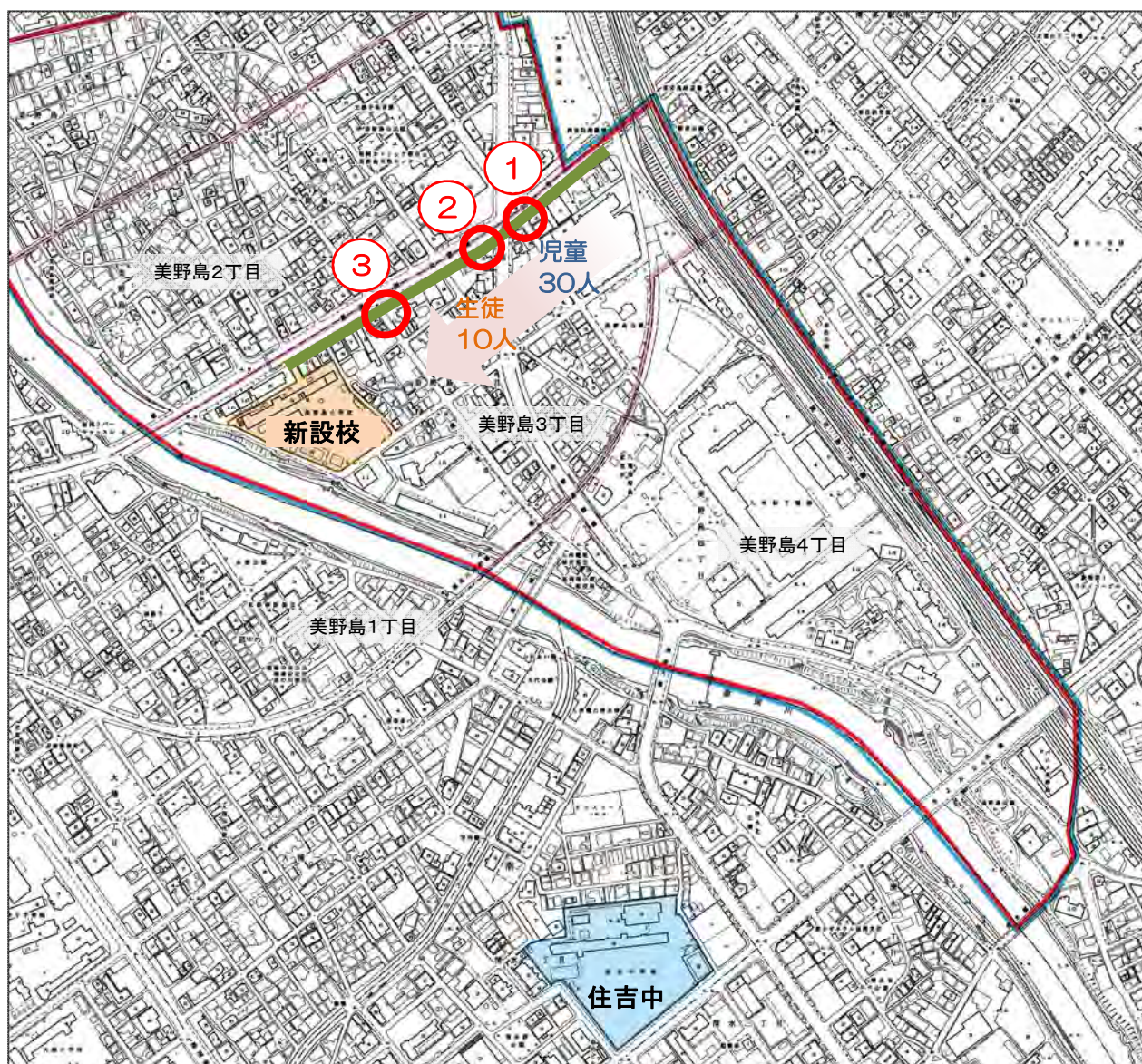
箇所	課題	対応（案）
①	歩道の未設置	見守り・誘導体制の継続
②	自転車との交錯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り・誘導体制の継続</li> <li>・路面標示による注意喚起</li> </ul>
③	待機時及び横断時における自転車との交錯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り・誘導体制の継続</li> <li>・路面標示による注意喚起</li> </ul>
④	自転車との交錯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り・誘導体制の継続</li> <li>・路面標示による注意喚起</li> </ul>



## 通学路の安全対策【B3ルート】

既存の通学路であり、課題について抽出し、今後新通学路の検討にあわせてさらなる安全対策を検討していく。

箇所	課題	対応（案）
①	美野島公園へ抜ける車両との交錯	横断歩道の新設を警察へ要望
②	美野島交差点の横断	見守り・誘導体制の継続
③	美野島通り交差点の横断	見守り・誘導体制の強化



## 住吉中学校ブロック小中連携校 学校教育部会報告

### 1. 日時・会場

第3回学校教育部会

平成25年2月12日（火）19:00～20:45 住吉小学校プレハブ2階会議室

### 2. 議題

- 小学校統合後の評価
- 中学校における新学習指導要領実施後の状況
- 新設校における制服導入の検討について

### 3. 協議結果

小学校統合後の評価

中学校における新学習指導要領実施後の状況

上記議題については、添付の学校教育部会資料1～4ページ参照。

#### 学校教育部会で出された主な意見

- ◆統合により新しい友だちがたくさんできて、子どもたちが生き生きとしている。
- ◆異なる学校文化に触れ、刺激し合うことで子どもが急成長したように感じる。
- ◆学習面で刺激し合うことによって学習意欲が高まったと感じる。
- ◆通学路での見守り体制を充実していただき、安心している。
- ◆両校のよき文化を残しつつ、新しい学校文化づくりを進めていってほしい。
- ◆現在、小学校、中学校では時制が異なるため、休み時間や給食時間も含めゆとりをもった学校生活が送れるよう時制の検討をお願いしたい。
- ◆統合により、子どもたちはこれまでとは違った環境で学校生活を送っているため、今後も教職員には子どもたちへの細やかな配慮をお願いしたい。

## 新設校における制服導入の検討について

平成27年4月開校の新設校において、独自の制服を導入することについて検討を行う。※なお、現在、福岡市立の小・中学校において独自の制服を導入している学校はない。

### ○現在の状況

- ・小学生：私服
- ・中学生：標準服として、男子は詰め襟型（黒）、女子はセーラー服

#### 中学校の標準服



※新たに制服を導入した場合の事例

#### 制服（プレザータイプ）例



### ○制服導入にあたっての考え方

#### 導入のメリット

- ・住吉小中学校の児童生徒としての自覚がより強まり、学校に対する“ほこり”“愛着”が醸成され、新設校のブランド化にもつながる。
- ・他の市立校の児童生徒と明確に区別されるため、周囲からの関心を意識することで規律意識が高まる。

#### 懸案事項

- ・小学校の場合、新たに購入費が必要となる。ただし、購入後は私服を用意する必要がなくなる。
- ・中学校の場合、標準服と同程度の価格設定とすれば、保護者の新たな費用負担は生じない。

#### 導入する際の留意事項

- ・小中学校の制服としてふさわしい色や形となるよう検討する必要がある。
- ・常時着用することから耐久性があること、家庭で洗濯できることなど制服のケアが容易にできることが望ましい。
- ・導入にあたっては各世帯によって所得が異なることから費用面での一定の配慮が必要となるが、一校区に限った支援制度はなく、全市一律の制度として一定の所未満の世帯に対しては就学援助制度が適用される。



## ○部会で出された意見について

### 独自の制服導入を支持する意見

- 制服を導入すれば愛校心が育まれ、誇りを持つようになる。
- 中学生の息子は標準服を自分で洗濯するなど、自分のことは自分ですという心が育まれている。小学生に制服を導入すればそのような心が育まれるのではないか。
- 制服の場合、色が統一され授業中に落ち着きが出る。
- 生活指導面での効果が期待できる。
- 制服であれば着ていく服を選ぶ苦勞が減る。
- 入学式、卒業式など一回限りの学校行事に着用する私服の費用負担がなくなる。
- P T Aバザーなどを活用しリサイクルすれば費用面での負担は軽減できる。

### 従来どおり（中学生は標準服・小学生は私服）を支持する意見

- 新設校の開校後はいろいろと学習環境が変わるため、服装ぐらいは現在のものを継続した方がよい。
- 現在の標準服も住吉中の誇りの一つであり、残してほしい。
- 小学校低学年は服を汚すことが多いため、制服の場合ケアが大変である。
- 私服における多様な服装への興味も成長の証しである。
- 小学生の場合、制服購入後は私服を用意する必要があるとの説明があったが、放課後の習い事などには私服が必要であり、依然として私服購入の費用がかかる。
- 小学生の場合、私服の購入費が減るとしても、制服の新規購入費は負担である。
- 卒業式など一回限りの学校行事における私服の購入負担は、レンタルなどの方法で費用を抑えることが可能である。

○検討の流れ

①制服導入について下記の区分で保護者・児童生徒・教職員に対し意向調査を行う。

	中学校
ケース①	従来標準服
ケース②	独自の制服

	小学校
ケース①	従来どおり私服
ケース②	一部を統一した制服 (夏はポロシャツ、冬は上着のみなど)
ケース③	独自の制服

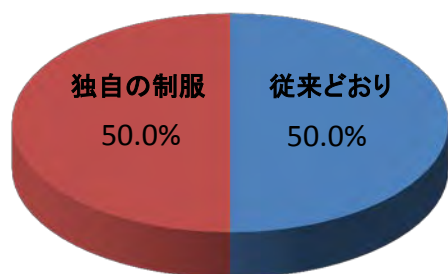
※意向調査票は学校教育部会資料  
8ページのとおり

②意向調査の結果を踏まえ、学校教育部会において小学校・中学校ごとに導入の可否について検討する。

③導入することとなった場合は、その後デザイン案の検討に入る。

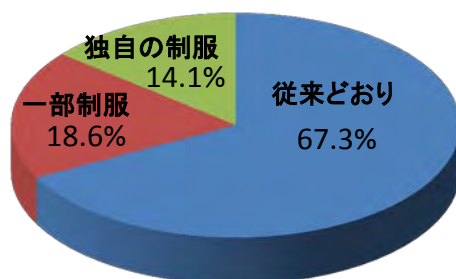
意向調査の結果（速報）

- ・期間：4月17日（水）～4月24日（水）
- ・対象：★小学校・中学校全学年の保護者  
★小学生5～6年生の全児童、中学生1～3年生の全生徒  
★小学校・中学校の教職員  
★校区内の保育園（どろんこ、松月、光應寺）の保護者のうち、校区内に居住の保護者
- ・回答枚数：1,197枚
- ・回答の単純集計  
中学校の制服について（従来どおり：50.0% 独自の制服：50.0%）



小学校の制服について

（従来どおり：67.3% 一部制服：18.6% 独自の制服：14.1%）



今後、詳細な集計・分析を行い、学校教育部会において導入の可否について検討する

# 住吉中学校ブロック学校教育委員会

## 第3回会議資料

日時：平成25年2月12日（火）

場所：住吉小学校 プレハブ2階会議室

- 1 小学校統合後の評価
- 2 中学校における新学習指導要領実施後の状況
- 3 新設校における制服導入の検討について

## 小学校統合後の評価

### 学校からの評価

住吉小学校と美野島小学校は、統合前から学校行事などを通して交流を行うなど十分な連携を図ってきたことから統合後はすぐになじみあい円滑に学校生活を送ることができている。

#### ○統合後の様子

##### 【学習面】

- ★統合により児童数や先生が増えたことで環境が変わり子どもたちが活性化した。また、多様な意見に触れる機会が増え、お互いに刺激し合いながら思考力がより培われてきている。
- ★体育の学習では、少人数では難しかった集団でのゲームや遊びが充実している。
- ★2校の学習規律が1つにまとまり、小中連携教育が行いやすい環境が整った。

##### 【生活面】

- ★交友関係が固定化されず、人間関係に広がりが見られた。
- ★お互いの学校文化に興味を持ち、学校生活全体が活気づいた。
- ★1学期は子ども同士がお互いを刺激し合い、人間関係を模索している面がみられたが、2学期には落ち着いた。
- ★あいさつや掃除への取り組みが向上した。
- ★旧住吉小の児童は今年4月に初めてのクラス替えを経験するため、落ち着いた学校生活を送れるよう見守りが必要である。

### 保護者からの評価

- 運動会などの学校行事において、従来の支え合う姿に加え、ともに競い合う姿が顕著に見られるようになり、おもしろさが増した。また、先生が1つにまとまっており、素晴らしいと感じた。
- 授業中に子どもたちが落ち着いて先生の話聞くことができていることに安心した。
- 通学が遠くなり心配していたが、通学時の地域・PTAの見守りのおかげで安全な通学ができおり安心している。引き続き危険箇所への取り組みを進めてほしい。

### 地域からの評価

- 多くの児童たちとあいさつを交わし触れ合うようになり地域が明るく、にぎやかになった。
- 児童数が増えたことで運動会の競技や演技に見応えがあった。また、先生の指導力だけでなく協力体制に感心した。
- 下校時の態度に課題が見られるため指導が必要である。また、通学路の安全確保には引き続き取り組んでほしい。

### 今後の取り組み

- 平成27年度の小中連携校開校や、今後10年後20年後を見通して、学習規律や生活習慣を学校全体で統一し、これらを児童や保護者にも周知徹底して学習効果の向上を図っていく。

# 中学校における新学習指導要領実施後の状況

## 新学習指導要領について

新しい学習指導要領については、中学校では平成24年4月から本格実施されており、基本的な考え方は以下のとおりである。

- ★教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成。
- ★知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視。
- ★道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

【実施後】国語、社会、数学、理科、保健体育、外国語の6教科の授業時間数が3年間で増加し、週あたりの授業時数が各学年で週1コマ増加することとなった。

### ○実施に伴う時数

実施前（20年度）

学年 教科等	1	2	3	計
国語	140	105	105	350
社会	105	105	85	295
数学	105	105	105	315
理科	105	105	80	290
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	90	90	90	270
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	105	105	105	315
道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
選択教科等	0～30	50～85	105～165	155～250
総合的な学習の時間	70～100	70～105	70～130	210～335
合計	980	980	980	2,940

実施後（24年度）

学年 教科等	1	2	3	計	増加率
国語	140	140	105	385	10%
社会	105	105	140	350	19%
数学	140	105	140	385	22%
理科	105	140	140	385	33%
音楽	45	35	35	115	-
美術	45	35	35	115	-
保健体育	105	105	105	315	17%
技術・家庭	70	70	35	175	-
外国語	140	140	140	420	33%
道徳	35	35	35	105	-
特別活動	35	35	35	105	-
総合的な学習の時間	50	70	70	190	-
合計	1,015	1,015	1,015	3,045	

※網掛けは時数が増えた箇所

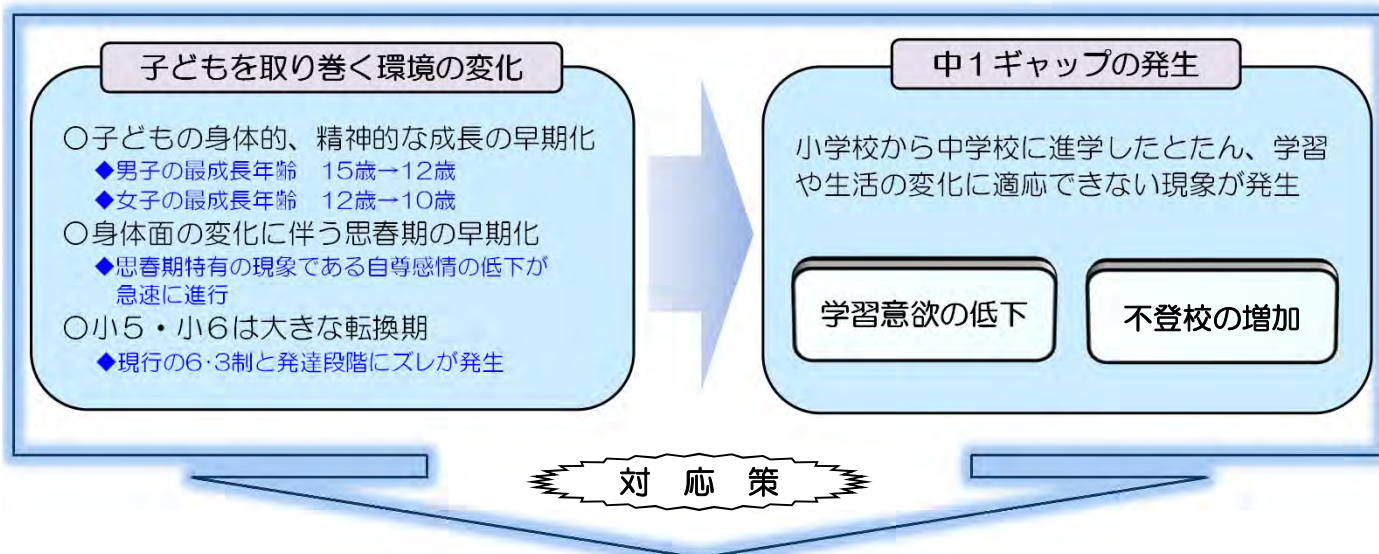
### 実施以降の状況と対応

各教科で新たに加わった内容等については、研修等を通じ周知していたため、概ね教職員、生徒ともに対応できている。

### 課題と対応

- 各学年で授業時数が年間35時数、週1コマ増加し、学習内容のボリュームが増したことにより、教員が授業のために費やす準備の時間や授業時間が不足しがちな点が見受けられるため、生徒たちの基礎学力・応用力の定着などにしっかり取り組んでいく。
- 道徳・学活・総合的な時間・人権教育については、特に小中一貫したカリキュラムを組み、段差のない円滑な移行を目指していく必要がある。  
そのため、施設一体型のメリットである小中双方の教員の機動力を生かしたきめ細やかな指導を発揮できるよう新年度から検討していく。

## 小中学校が連携した特色ある教育の推進



## 小中連携教育の推進

- ◆義務教育9年間を見通した系統的・継続的な指導
- ◆小学校から中学校への滑らかな移行
- ◆子どもたちの発達段階に応じた指導

### 9年間を通した教育課程の編成

小学校の学習指導・生活指導				中学校の学習指導・生活指導				
小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年

#### 【前期】小1～小4

学習や生活の基盤づくりを進めることに重点を置き、学習規律や基礎的知識・技能、基本的生活習慣の確実な定着を図る。

#### 【接続期】小5～中1

自ら学ぶ意欲を高め、粘り強く学習する態度を育成する。小学校高学年に対し中学校からの出前授業を行うなど中学校へ円滑な接続を図る。

#### 【後期】中2～中3

個々の能力や個性を伸ばすことに重点を置き、進路についての目標を持ち、自ら進路を切り開こうとする態度を育成する。

## さらに

### 施設一体型のメリットを生かした指導

- ◆施設一体型ゆえの教員の機動力を生かした中学校教員による小学校への効率的な出前授業が可能となる。
- ◆職員室・会議室の小中一体化による小中教員の連携強化により、学習面・生活面でのよりきめ細かな指導が可能となる。
- ◆児童生徒の日常的な交流による小中学校間でのよりよい人間関係の充実が期待される。
- ◆中学生になっても小学校の時の先生と学校内で接することができる安心感から生活や学習の態度に落ち着きが出る。

### 住吉小中学校独自の特色ある教育の推進

#### 2階建て構造の学習指導計画

##### 2階部分（独自色を生かした教育）

- ◆ことばを大切にした教育の充実
- ◆地域の伝統を大切にする教育の充実
- ◆国際理解教育・異文化教育の充実

##### 1階部分（学力向上を目指した教育）

- ◆反復学習の徹底による基礎学力の向上
- ◆自学の推進と基本的生活習慣の定着
- ◆論理的思考力の向上

# 検討スケジュール

年 度		取 り 組 み の 内 容		
平成24年度	4月	小学校統合・中学校新学習指導要領本格実施		
	5月			
	6月			
	7月	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid orange; border-radius: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>小 学 校</b></p> <p>○統合に伴う課題検証 ○新しい学校文化の醸成</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">↓</p> <p style="text-align: center;">小学校の土台固め</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #d1c4e9;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>中 学 校</b></p> <p>○新学習指導要領本格実施に伴う課題検証</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">↓</p> <p style="text-align: center;">中学校の土台固め</p> </div> </div>		
	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
	12月			
	1月			制服導入の検討
	2月			
	3月			アンケート実施 集計分析
平成25年度			<p style="text-align: center;"><b>教育指導計画の検討</b></p> <p>○小・中学校が連携した教育指導計画の検討 ○住吉小中学校独自の特色ある教育目標の策定 ○小中連携校における時制のあり方の検討</p>	アンケート結果を 踏まえた導入の検討
				<p style="text-align: center;">【導入の場合】</p> <p>○デザイン案検討 ○コスト検討</p>
		<p style="text-align: center;">【導入の場合】</p> <p>○制服業者打合せ ○制服製作</p>		
平成26年度		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 40%; background-color: #bbdefb;">校内研修</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 40%; background-color: #ffe0b2;">試 行</div>	<p style="text-align: center;">【導入の場合】</p> <p>○制服業者打合せ ○制服製作</p>	
			購 入	
平成27年度		小 中 連 携 校 開 校		

## 新設校における制服導入の検討について

平成27年4月開校の新設校において、独自の制服を導入することについて検討を行うもの。

### 1. 現在の状況

- 小学生：私服
- 中学生：標準服として、男子は詰め襟型（黒）、女子はセーラー服

#### 中学校の標準服



※新たに制服を導入した場合の事例

#### 制服（ブレザータイプ）例





## 2. 制服導入にあたっての考え方

### ○ 導入のメリット

- ・住吉小中学校の児童生徒としての自覚がより強まり、学校に対する“ほこり”“愛着”が醸成され、新設校のブランド化にもつながる。
- ・他の市立校の児童生徒と明確に区別されるため、周囲からの関心を意識することで規律意識が高まる。

### ○ 懸案事項

- ・小学校の場合、新たに購入費が必要となる。ただし、購入後は私服を用意する必要がなくなる。
- ・中学校の場合、同程度の価格設定とすれば、保護者の新たな費用負担は生じない。

### ○ 導入する際の留意事項

- ・小中学校の制服としてふさわしい色や形となるよう検討する必要がある。
- ・常時着用することから耐久性があること、家庭で洗濯できることなど制服のケアが容易にできることが望ましい。
- ・導入にあたっては各世帯によって所得が異なることから費用面での一定の配慮が必要となるが、一校区に限った支援制度はなく、全市一律の制度として一定の所得未満の世帯に対しては就学援助制度が適用される。※1

## 3. 検討の流れ

- 制服導入について下記の区分で保護者・児童生徒・教職員に対し意向調査を行う。

	中学校		小学校
ケース①	従来の標準服	ケース①	従来どおり私服
ケース②	独自の制服	ケース②	一部を統一した制服 (夏はポロシャツ、冬は上着のみなど)
		ケース③	独自の制服

※意向調査票は8ページのとおり

- 意向調査の結果を踏まえ、学校教育部会において小学校・中学校ごとに導入の可否を検討する。
- 導入することとなった場合は、その後デザイン案に入る。

## ※1 参考：就学援助制度について

### ○ 制度の趣旨

経済的な理由により就学が困難な子どもたちの保護者に対して援助を行い、子どもたちが等しく義務教育を受けることができるようにすることを目的とする。

### ○ 対象者

市民税非課税または減免の適用を受けている、国民年金または国民健康保険の保険料の全額免除を受けている、市民税所得割額が本市で定める基準額以下である、などの条件に該当する方。

※本市の市民税所得割額基準（平成24年度）

15歳以下の子ども的人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人
H24市民税所得割額	82,800円	104,100円	126,900円	148,200円	169,400円	190,800円

### ○ 本市の給付費目及び給付額

給付費目	小学校		中学校	
	対象学年	支給額	対象学年	支給額
入学準備金	1年生	19,900円	1年生	22,900円
給食費	全学年	必要経費の実費	全学年	必要経費の実費
学用品費等	1年生	1学期 7,010円	1年生	1学期 14,080円
	2～6年生	1学期 9,180円	2～3年生	1学期 16,250円
	全学年	2学期 3,200円 3学期 2,400円	全学年	2学期 5,600円 3学期 4,200円
修学旅行費	6年生	対象経費の実費	2年生	対象経費の実費
社会科見学費	5年生	対象経費の実費	援助対象外	—
卒業記念品費	6年生	対象経費の実費	3年生	対象経費の実費
校外活動費 (宿泊を伴うもの)	全学年	交通費、見学料の実費	全学年	交通費、見学料の実費
体育実技用具費 (柔道着のみ)	援助対象外	—	全学年	必要経費の実費
通学費	全学年	必要と認められる額	全学年	必要と認められる額
災害給付金	全学年	再購入費	全学年	再購入費

### ○ 入学準備金について

支給額：小学1年生・19,900円、中学校1年生・22,900円

※支給額は定額であり、当該給付で賅うことができない支出は保護者の負担となる。

制服を導入した場合の支給対象は入学準備金該当するが、当該給付は入学時に必要となる小学生のランドセル、中学生の標準服や、文房具、カバンなどの学用品の購入費に対して援助するものであり、制服を導入した場合は以下の状況となる。

- ・中学生の場合は、現在の標準服と同程度の価格設定とすれば、支給対象が標準服から制服にかわるに過ぎず支出増とはならないが、小学生の場合は、現在私服であるため制服購入が新たな支出となり負担増となる。
- ・支給対象者は小・中学生とも1年生の保護者のみであり、開校時点における小学2～6年生の保護者、中学2～3年生の保護者は対象とならず、負担増となる。

# 新設校における制服の意向調査票（児童・生徒用）

該当する区分に○で囲んでください

小学校 ・ 中学校

性別

男 ・ 女

## ○中学校の制服について

下記の2つのうち、いずれかに○印を記入してください。

- 1  現在の標準服のままでよい。（男子：詰め襟型（黒）、女子：セーラー服）



現在の標準服

- 2  標準服とは別のタイプの制服を検討する。（ブレザーなど）

※検討する場合は、耐久性や色、洗濯などのケアに配慮し、現在の標準服と同程度の価格で検討します。



制服（ブレザータイプ）の例

左の写真は検討のためのイメージとなります

- 3 制服に関して意見がございましたらご記入ください。

## ○小学校の制服について

下記の3つのうち、いずれかに○印を記入してください。

- 1  現在の私服のままでよい。

- 2  一部を統一した制服を検討する。  
（夏はワンポイントとして校章を入れたポロシャツ、冬は上着のみを統一など）

- 3  小中連携校として中学校と同デザインの制服を検討する。（ブレザーなど）

※検討する場合は、耐久性や色、洗濯などのケアに配慮いたします。なお、中学校の標準服と同程度の費用負担（約3万円）が生じることになります。

- 4 制服に関して意見がございましたらご記入ください。